

# 近畿大学医学部(後期)

## 【化学】

問題番号	2013年	2012年	2011年
I 番	金属イオン分析	金属結晶の立方格子	反応速度、平衡定数
II 番	イオン結晶：結合力 及び立方格子	溶解度積	食塩の立方格子
III 番	有機：芳香族の 構造決定	有機：脂肪族の 構造決定	有機：芳香族化合物 の抽出
立方格子の計算は繁雑な少数計算とならないように配慮されている。			

今さら述べるまでもないかも知れないが、近畿後期の問題は全学部共通であるため、前期の様な難問、奇問は出題されず取り組み易いため高得点の勝負となるのでミスの有無が明暗を分けることとなる。

化学においてもそれは同様であり、上図を見ても明らかな様に傾向ははっきりしている。I IIの理論化学は化学IIの内容が中心である。IIの有機は化学I内容であり、糖、タンパク質等は出題されない。この傾向は今年度も変わらないであろう。したがって対策としては①化学I内容の無機・有機を細かくチェックする。②化学IIの理論では希薄溶液、立方格子、電離平衡の計算練習をしておくのが最も効果的であると言える。

## 【英語】

近畿大学の後期の問題は前期に比較するとはるかに取り組み易い。V番の問題は普段から英英辞典を使っている生徒なら何の抵抗もないだろう。長文問題も1題しかなく前期の問題のように内容が見えにくいということもないだろう。したがって英語では点数差はつかないと言える。今までも書いて来たようにどれだけ総合的なミスを少なくするか、そしてそれをできるかが全てと言える。自分ができたと思っても相手も必ずできていると思った方がいいだろう。大きなミスをしてしまうともう挽回は無理だと言える。全ての科目をどれだけノーミスに近づけられるかが全てではないだろうか、がんばって欲しい。「僅差の相手に競り勝てるかどうか？」ではないだろうか。

## 【生物】

近大後期入試は他学部との共通問題であるので、例年、前期入試と比べるとテーマ的にも難易度的にもかなり解きやすいと言われる。ただし、特にこの何年かの生物についてはその傾向は少々怪しいものになっている。最後の大問に思考力を要する重い問題が配置されるなど、共通問題といえども倍率の高い医学部を意識した構成に変化してきているように思える。

その内容上の特徴はズバリ、実はこの点は近大の他学部の問題にもある程度共通するのだが、とにかく計算問題の割合が異常に高くなっているということ。直前チェックとして典型的な計算パターンを再確認しておこう。計算問題の王道と言われる遺伝だけではない。光合成や呼吸といった代謝関連、さらにはDNAの塩基配列に関するショットガン法や臓器移植の拒絶反応など、ありとあらゆるテーマで出題されている。今年もやはり、遺伝・遺伝子・代謝が特に狙い目となる。

遺伝は植物が材料として取り上げられる可能性が高い。よって、たとえば「種皮は母親の遺伝子型による形質である」とか「キセニア」など、通常の遺伝形式に対する計算法以外には植物に特有の内容や考え方をこれまでの演習ノートで必ず見直しておくこと。

遺伝子はよくある転写と翻訳以外には、DNA計算が大切。「タンパク質・アミノ酸・ヌクレオチドの平均分子量」、「遺伝子の平均塩基対数」などのイメージはできているだろうか。また、代謝の細かいしくみや反応式のチェックとともに、タンパク質や酵素の性質も確認するとよい。

今年度最後の受験と位置付けている受験生も多いはずである。堂々とした戦いを心掛けてください。